

区のお知らせ

足立区

企画室
TEL (882) 1111
足立区千住一丁目50

特集 ▶写真とグラフで見る
足立区5年間のあゆみ



5年前の足立区と現在の足立区

区では、年々ばう張する行政需要に対処していくために、昭和41年度から行政施設建設五か年計画をたて、「生活環境の整備」「青少年の健全育成」「社会福祉の充実」の3項目を区政3本の柱として、目標の達成に努力してきました。この計画は45年度をもって、一応の目的を果たし、次年度からは長期計画審議会の答申を指針として、新たな構想のもとに実施計画が立てられます。

では、この五か年間ににながふえたか、施設の建設を中心に、そのあゆみを写真とグラフで追ってみましょう。

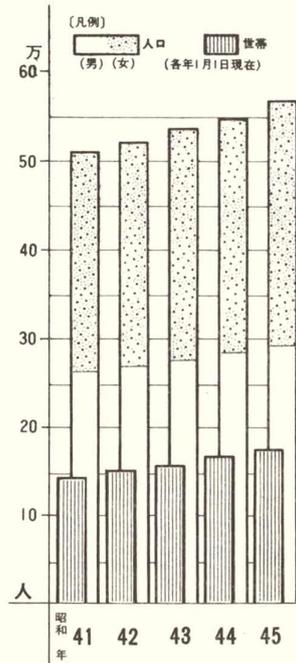
1 ばう張する人口

足立区は、昭和30年代にはいつてから年ごとに都営住宅の建設がさかんとり、38~41年にかけては公団住宅も急増しました。こうして45年6月現在、都住が19,551戸、公団住宅 9,615戸、公社住宅 988戸あり、都23区内ではもっとも多く建てられています。

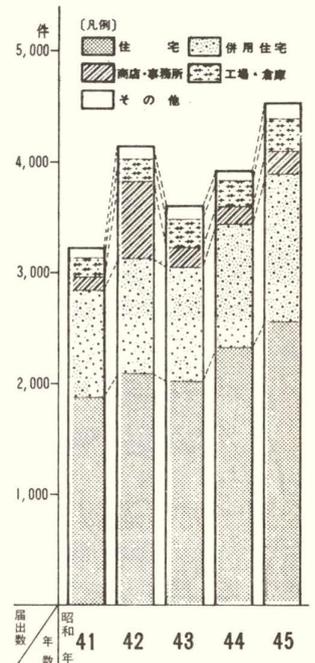
この公営住宅の建設が刺激となって、人口増加も、39年をピークに、年間2~3万人の増加をみていましたが、その後、転入する人が減り、転出する人がふえてきて、44年中の増加は13,441人となっています。これを住民基本台帳によってみますと、転入出による社会増は1,860人、生死差引きの自然増は10,456人、その他1,122人の増となっています。39年中の人口動態では26,500人の社会増があったことを考え合わせますと、人口の増加も以前とは異なって、内側からばう張していることがわかります。

人口がふえるにしたがって、区内の様子も変わってきました。車がふえ、店がふえ、交通機関のラッシュはきびしくなってきました。これをまず、グラフで見てみましょう。

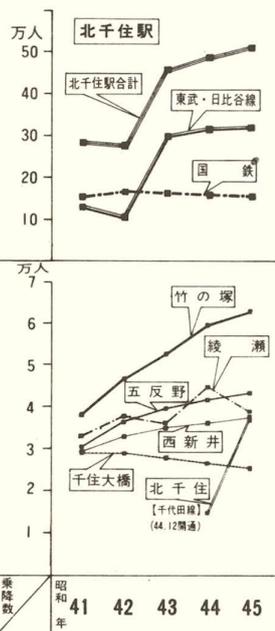
人口と世帯



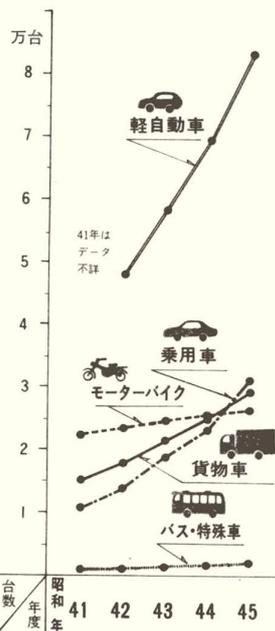
建築届数と種類



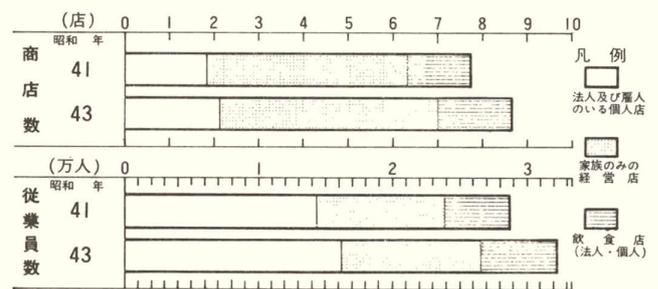
主要駅 1日の乗降人員



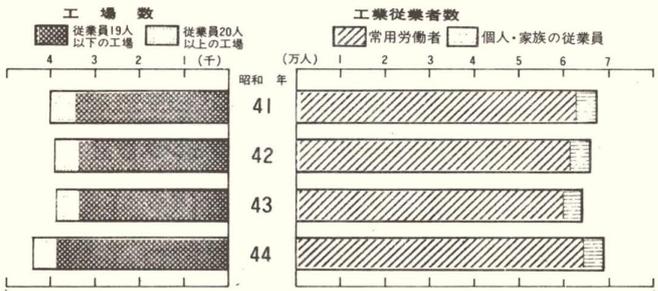
区内の自動車登録台数



商店と従業員数 (東京都統計年鑑より)



工場と従業員数 (東京都統計年鑑より)



2

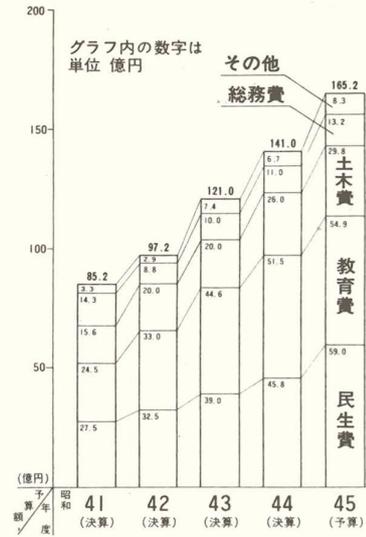
ふえる一方の行政需要

人口がふえれば、学校の建設、道路の舗装、下水道の整備はもちろん、公園・児童遊園などの空間も必要ですし、図書館や集会場、さらには保育園などの福祉施設もつくらねばなりません。こうして、人口が増加するごとに行政需要が多くなり、これをまかなう財政規模もまた急速に増大してきます。5年間の伸びを見てみましょう。

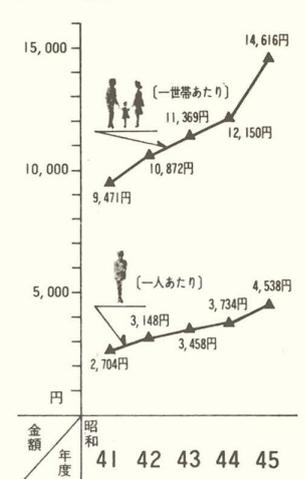
一般会計歳入の構成比

年度	特別区交付金	特別区税	国庫支出金	都支出金	諸収入	その他
昭和41年度	36%	25%	18%	5%	4%	12%
42年度	40%	26%	19%	4%	3%	6%
43年度	41%	24%	18%	5%	3%	7%
44年度	43%	25%	17%	7%	4%	6%
45年度	43%	29%	18%	8%	3%	5%

一般会計歳出決算額の推移



区民税負担の推移



3

生活環境の整備

人間は環境に支配される動物であるといわれるほど、生活と環境は切っても切れません。環境のよい所に住みたいと願うのは誰しも同じこと。そこで、共同の空間である公園、こどもの遊び場、道路、ガードレール、下水路、街路燈……などさまざまな公共の施設を整備して健康で明るい環境づくりに力を入れました。5年間にどれくらい整備できたか、見てみましょう。

公園・児童遊園

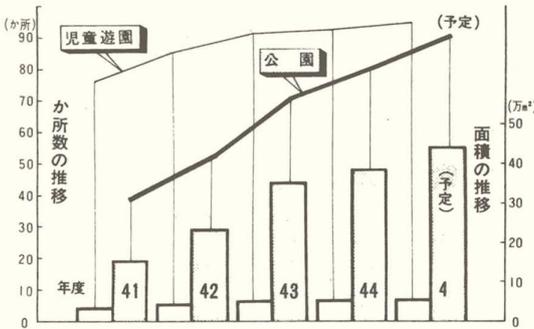
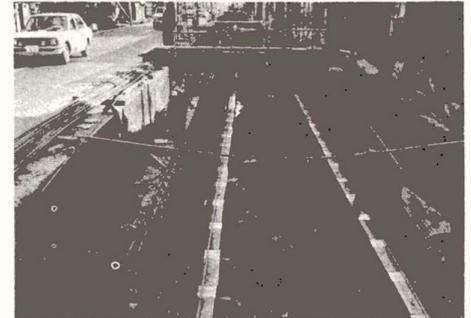
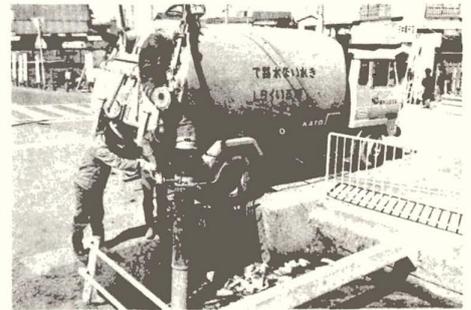
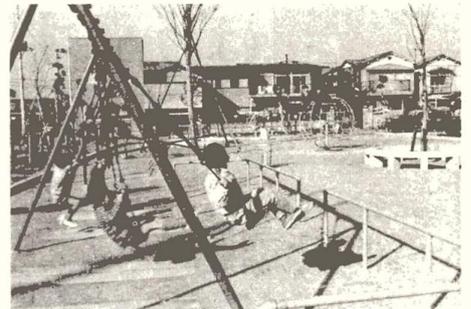


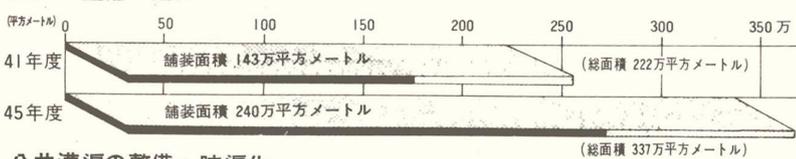
写真 上から

- ▶44年12月10日に開園した六月町公園
- ▶大型ダンパーで公共溝渠のヘドロを吸収
- ▶ガードレールをつけてドブにふたかけて歩道をつくる。伊興町本町七曲りで。
- ▶旧用水を暗渠にして道路を広げる。島根4丁目の旧道で。

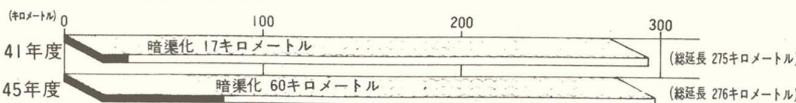


区道・公共溝渠・安全設備

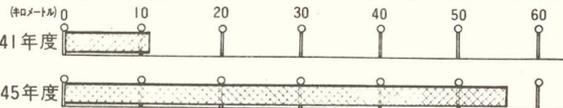
区道の整備・舗装



公共溝渠の整備・暗渠化



安全設備の整備・ガードレール・ガードフェンス設置



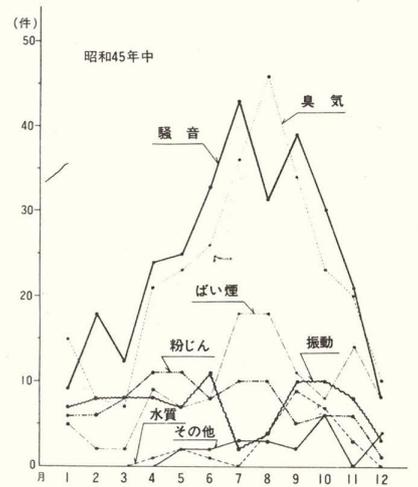
公害



大気汚染、水質汚濁、騒音、振動などによる公害は、ますますふえています。都市活動が活発になればなるほど、自動車の排気ガスや深夜の騒音も、公害となってあらわれてきます。区では昭和44年4月から公害課を設置して、工場認可等の事務を扱い、公害の苦情、相談などを受けています。

写真は 工場の騒音測定

公害の苦情・陳情件数



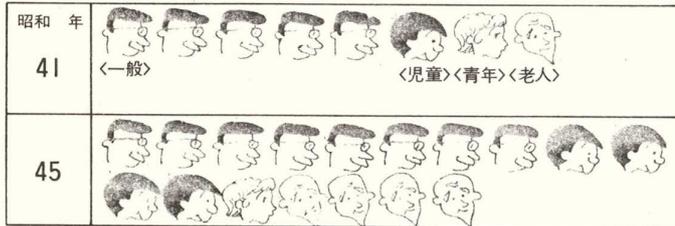
4 社会福祉の充実

地方行政の目的は地域住民の福祉の増進にあるといわれています。病人、心身障害者、老人、母子世帯など社会的に弱い立場にある人たちをお世話するほか、どなたでも利用できる集会室・会議室・ホールなど、また働くおかあさんがのために保育園や学童保育クラブ、おとしよりの施設、こどもの施設などの充実をめざしました。ではどのくらいの施設がふえたでしょうか。

団地の建設とともに保育園づくりに拍車



公会堂・集会施設数



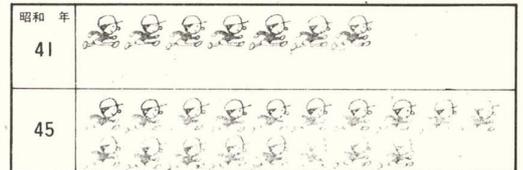
注：一つの絵が一か所を示す

四つの地域に区民福祉センター

中部 (上左) 東部 (上右)
西部 (下左) 千住 (下右)

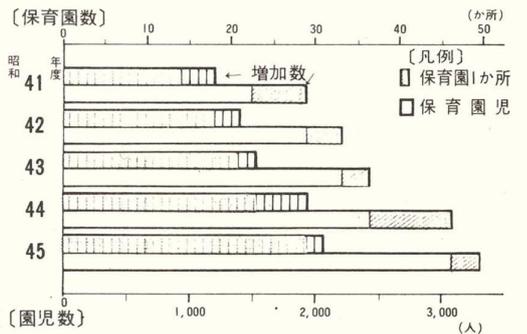


学童保育クラブ数



注：絵一つが1クラブ

保育園と園児数



5

青少年の健全育成

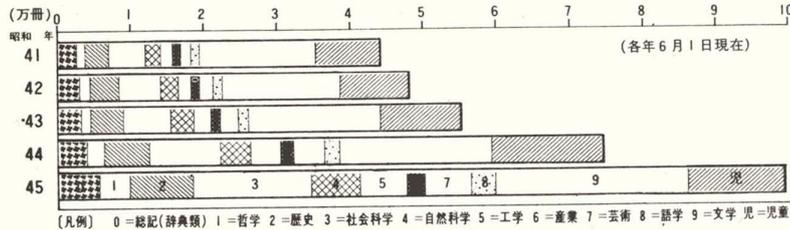
青少年が健全に成長していくためには、心身ともに明るく過させねばなりません。こうして、少年野球場をつくるなどスポーツをさかんにし、また、中央図書館や地域図書館を建設しました。



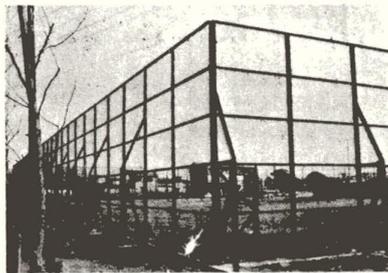
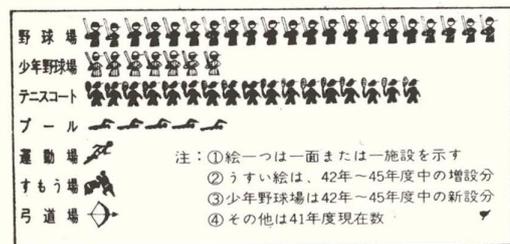
昭和44年4月に開館した中央図書館、15万冊の蔵書を目標に年々整備している。

左・南権公園の少年野球場、他7か所ある
右・本格的な平野運動場の野球場

区立図書館蔵書数



運動場数



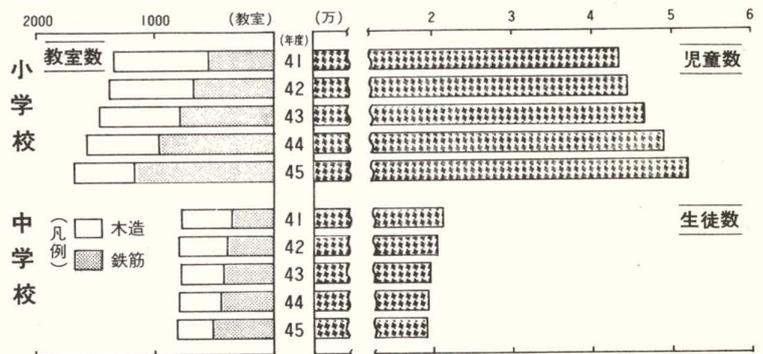
6 教育施設の充実

いちばんの悩みは学校の建設、おいそれと適当な用地がありません。こうした中で、毎年2~4校を新設してきました。体育館やプールの建設も着々と進めています。

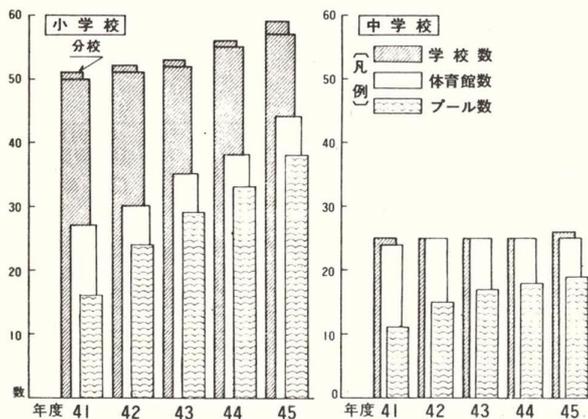
鹿浜西小の建設 (44~45年)



児童・生徒数と教室数の推移



学校・体育館・プール



中川小の体育館 (45年)

